

仙台大学 広報室



# Monthly Report

## 地元・気仙沼市から「スポーツ栄誉賞」受賞 一陸上競技部・加藤由希子選手(健康福祉学科3年)



菅原市長から「スポーツ栄誉賞」の盾を受け取る加藤選手(右)＝気仙沼市役所

11月16日(日)、気仙沼市役所で「平成26年度気仙沼市スポーツ顕彰授与式」が行なわれ、本学陸上競技部の加藤由希子選手(健康福祉学科3年一宮城・気仙沼女子高校出身)が「スポーツ栄誉賞」を受賞しました。加藤選手は、昨年7月にフランスのリオンで開かれた「2013IPC陸上競技世界選手権大会」のやり投げで日本新記録で銅メダルを獲得。その功績が認められ、加藤選手の地元である気仙沼市の菅原茂市長から盾と賞状が贈られました。

過去に同市の「スポーツ栄誉賞」を受賞したのは、千田健太選手(ロンドン五輪フェンシング男子団体銀メダル)・菅原智恵子選手(ロンドン五輪フェンシング女子個人・団体7位入賞)・佐藤真海選手(3大会連続でパラリンピック陸上競技走り幅跳び出場)の3選手のみです。

加藤選手は授与式の前に、先月行なわれた「2014仁川アジアパラ競技大会」の陸上女子砲丸投げ(世界新記録を樹立)と円盤投げ(大会新記録)で2冠を達成したことを菅原市長に報告。市長から「向かうところ敵なしですね。被災地・気仙沼に元気と勇気を与えてくれました。まだまだ記録を伸ばし、体に気をつけて頑張ってくださいね」と賞賛と激励の言葉を頂きました。加藤選手は「来年ドバイで行なわれる世界選手権とリオデジャネイロ・パラリンピックを目指して頑張ります。今の結果に満足せず、さらに上を目指します」と今後の目標を力強く話しました。

### < 目 次 >

|  |   |
|--|---|
| 地元・気仙沼市から「スポーツ栄誉賞」<br>受賞一陸上競技部・加藤由希子選手 | 1 |
| 百歳元氣あおぞらにこにこ体操を披露                      | 2 |
| TKbjリーグ仙台89ERS・佐藤文哉<br>選手(本学OB)が来校     | 2 |
| 「楽しい遊びや運動で高齢者の元氣<br>をつくる」をテーマに発表       | 3 |
| ベトナムでの日本留学フェアに初参加                      | 5 |
| 学生の競技結果等                               | 8 |

学生の活躍や、取り組みをご存知でしたら  
広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関  
にも旬な話題を提供していきたいと考えて  
おります。

本誌へのご意見・ご質問等がございましたら、  
広報室までご一報ください。

#### 広報室

直通 0224-55-1802

内線 佐藤美保 256

渡辺誠司 271

土生佐多 200

Email:kouhou@sendai-u.ac.jp

## 百歳元気あおぞらにこにこ体操を披露



あおぞらにこにこ体操を実演する本学健康福祉学科の佐々木さん（右）と日高さん＝亘理山元いちご選果場

11月8日（土）、亘理山元いちご選果場（宮城県亘理町）で「JAみやぎ復興祭」が開催され、仙台大学・JAみやぎ・FMあおぞらの三社共同で制作した「JAグループみやぎ あおぞら にこにこ体操」が披露されました。

「あおぞら にこにこ体操」は、本学が2年前にJAみやぎより委託を受け、農家の方々の健康増進を目指して制作されたオリジナル体操です。

今回は、JAみやぎ会員の皆さまへのなお一層の普及を図ることを目的として実施されました。平成26年12月1日からは、新しいバージョンの「あおぞらにこにこ体操」がFMあおぞら（宮城県亘理町）で1日2回放送されることになり、さらに、同体操はJAグループでCD化され、家庭でも手軽にできる体操としての普及に向けた活動が進められています。

当日は、会場いっぱいにお集まり頂いた100名以上の地域の皆様と共に「あおぞら にこにこ体操」を行ないました。最初に本学の阿部芳吉学長が「みんなで「にこにこ体操」に励みましょう。健康で長生きをして、人生を楽しみましょう」と挨拶。本学ささきりさの佐々木里紗さん（健康福祉学科4年－岩手・一関ひだかけいすけ学院高校出身）と日高啓涼さん（健康福祉学科4年－アップルスportsカレッジ新潟・六日町高校出身）がステージ上で「にこにこ体操」を実演しました。

日高さんは「にこにこ体操は、覚えやすく簡単にできる体操ですので、にこにこ体操を通して、健康で長生きして頂きたいです」「将来は、運動指導のできる福祉関係の仕事で活躍したいです」と話しました。

## TKbjリーグ仙台89ERS・佐藤文哉選手（本学OB）が来校



左から阿部学長・朴澤理事長・OB佐藤選手・村田監督・杉山コーチ＝学長室

11月11日（火）、日本プロバスケットボールリーさとうふみやグ（通称bjリーグ）仙台89ERSの本学OB佐藤文哉選手（平成25年体育学科卒－宮城・明成高校出身）が来校し、大学にサイン入りユニフォームを寄贈して下さいました。朴澤泰治理事長、阿部芳吉学長及び本学男子バスケットボール部の村田健一監督・杉山竜馬コーチが同席。

阿部学長は佐藤選手に対し、「在学生の励みになるので、ユニフォームは目立つところに飾りたい。とても有難い。「怪我をせず1年間通して活躍し、リーグ初優勝を目指して頑張ってもらいたい」とお礼と激励の挨拶を送りました。

佐藤選手は宮城・明成高校から仙台大学を経て、仙台89ERSに入団。仙台大学時代は主将。東北大学バスケットボールリーグでは3年連続でベスト5と3ポイント王を受賞するなどの活躍をされました。佐藤選手とえば、3ポイントシュートが代名詞であり、そのシュート力とシュートテクニックが持ち味。飛躍のプロ2年目となる佐藤選手は「仙台大学は自分の原点に戻れる、エネルギーももらえる場所。もう一度頑張ろうという気持ちになれる」と話し、「日々の練習から意識や行動を変えなければ、試合では良い結果は得られない。練習から100%出すことが大事。後輩達には11月のインカレで上位進出を目指してほしい。自分もチームの勝利に貢献できるプレーをして、リーグ初優勝を目指す」と後輩達への力強いエールと今後の抱負を述べました。

## 船岡小学校から総合学習で3名の小学5年生が仙台大学を取材体験



11月12日(水)、船岡小学校から小学5年生の3名が来訪し本学で取材活動を行いました。これは船岡小学校が総合学習プログラムの一環として「柴田三ツ星プロジェクト」と題し授業展開しているもので、柴田町の良さを探求し学ぶことを目的に5学年の小学生がさまざまな地域にある施設などを各班ごとに取材し、その成果を学校に持ち帰り披露するものだそうです。

3名の小学生記者からは、仙台大学の歴史や人気のサークル活動、仙台大学のオリンピック選手はどれくらいいるのか、どんな思いで仕事をしているのか、他の大学との交流やサークル同士の交流はあるのかなど、多岐にわたる質問があり「柴田町から世界で活躍する学生の方や卒業生がいるということがすごい」「サッカー部には200人を超える部員がいることに驚いた」など、小学生らしい素直な感想を話していました。第3体育館のトレーニングセンターと第4体育館のアスレチックルームの見学では、新助手の白坂牧人、浅野勝成S&C(ストレングス・アンド・コンディショニング)両コーチと、鈴木のだみアスレチックトレーナーの専門的な説明を聞き、地道なトレーニングや自分の体をケアする学生の様子を一生懸命カメラに収める姿もありました。短い時間ではありましたが、小学生記者達にとって、仙台大学をより身近に感じる取材体験となったようです。

ご協力下さった白坂新助手はじめ関係者の皆様、ありがとうございました。

## 「楽しい遊びや運動で高齢者の元気をつくる」をテーマに発表



11月25日(火)、せんだいメディアテーク(仙台市青葉区)で「復興の新しいまちづくりに向けてー楽しい遊びや運動で高齢者の元気をつくる」(主催：株式会社乃村工藝社/共催：一般社団法人OVAL HEART JAPAN・仙台大学/協力：コセキ株式会社)をテーマにした取り組みが紹介され、約60名の方がご来場下さいました。

本学スポーツ健康科学研究実践機構長の鈴木省三教授(写真右端)は、「子どもの頃から運動習慣を身に付ける、楽しい36の基本動作を身に付けること

が、介護を必要としない高齢者の割合を増やすことになる」と説明し、子どもの心と体と頭を伸ばす36の基本動作を紹介しました。また、転倒予防とバランス能力の向上を目的とし、「ビームステップ」を用いたステップ運動も紹介しました。

体力や運動能力のレベルが似ている子どもと高齢者が一緒に楽しめるスポーツ・ゲームとして、

あおやまみさき  
鈴木省三ゼミに所属している青山美沙紀さん(右から2番目)(体育学科3年一栃木・宇都宮文星女子高校出身)が「ICTを活用した新しい鬼ごっこ」を提案。青山さんは「ICTと運動体験(鬼ごっこ)との融合を通して、高齢者には介護予防や寝たきり防止に、子どもたちには運動習慣を楽しく継続させることや、肥満改善に役立ててほしいです」

とよぼみさと  
と話しました。また、同ゼミの樋場美里さん(左から2番目)(体育学科3年一秋田・横手城南高校出身)と二瓶柚紀さん(体育学科3年一福島西高校出身)(左端)は、「ICTを活用した新しい鬼ごっこ」の実演を行いました。

最後に、一般社団法人OVAL HEART JAPAの代表理事である大西一平氏が、主に高齢者を対象とした、歩いて健康を維持するためのウォーキングプログラム「歩く人。」の活動などの報告を行ない、報告発表会が締めくくられました。

## NSCAジャパン南関東AD(地域ディレクター)セミナーを開催



前列左から4番目加賀氏、5番目白坂氏

11月16日(日)、千葉市の株式会社ザオバにおいて、NSCAジャパン南関東AD(地域ディレクター)セミナーを開催致しました。

今回は、講師に仙台大学アシスタントS&Cコーチ白坂牧人氏、仙台大学ヘッドS&Cコーチ加賀洋平氏をお招きし、「日米S&Cの現状と比較」をテーマとする講義、ならびに「ウェイトトレーニングの基礎」をテーマとする実技講習を実施致しました。

午前は白坂牧人氏に「日米S&Cの現状と比較」をテーマとする講義を実施して頂きました。

本講義では、米国における民間営利施設、日米のプロスポーツチームならびに日米の大学においてS&Cコーチとしての活動経験を有する白坂氏から、それぞれの拠点におけるS&Cコーチの現状、実情について非常に興味深いお話を頂き、日米のストレングス&コンディショニングの比較解説をして頂きました。

米国に比べ、日本においては施設環境の面で劣る部分があること、S&Cコーチとして求められるスタンダードについて曖昧な部分があることが解説される一方で、S&Cコーチの育成プログラムについては米国においても十分に確立されたものがある訳ではなく、S&Cコーチとして成長していくためには、日米を問わずストレングス&コンディショニングに関する科学的根拠と指導技術を教授することの出来る秀でたS&Cコーチの下で経験を積むことが重要である点が強調されました。

今回の講義には若手のS&Cコーチが多数参加されていっしやいましたが、今後、自らの成長のために何をすべきかを把握する良い機会になったのではないかと思います。

午後は加賀洋平氏に「ウェイトトレーニングの基礎」をテーマとする実技講習を実施して頂きました。

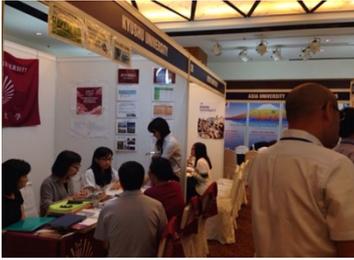
本実技講習は、加賀氏よりリバースランジ、ランジ、RDL、グッドモーニングエクササイズ、スクワットの各エクササイズの基本テクニックについて「健康的で効果的な動作」という概念、視点に基づく解説をして頂いた上で、小グループに分かれ、それぞれのエクササイズを実践するという流れで展開されました。

ウェイトトレーニングの基本テクニックは多くのトレーニング指導者に浸透しているようで、実は統一性がなく理解度も低い現状があるといえますが、筋生理学、バイオメカニクス等の科学的根拠に基づき、より健康的で効果的なウェイトトレーニングの基本テクニックを学ぶ絶好の機会となったのではないかと思います。

本実技講習を通じて、S&Cプログラムのエクササイズ選択には、科学的根拠に基づく明確な理由が存在しなければならないこと、各エクササイズの動作ポイントについて徹底した指導を実施することが重要である点について、参加者の多くが再認識されていたようでした。

<寄稿：NSCAジャパン南関東  
アシスタント地域ディレクター 野口克彦氏>

## ベトナムでの日本留学フェアに初参加



各ブースで工夫を凝らしたPR



基本理念【Sports for All】について、朴澤理事長・学事顧問直々に解説



パンフレットや大学紹介の動画を用いて説明



仙台大学の紹介動画を熱心に見る学生

2014年11月15日（土）16日（日）の二日間、真夏のような晴れ渡る空の下、ベトナムハノイ市メリハノイホテル並びにホーチミン市ホテルエクアトリアルにおいて、独立行政法人日本学生支援機構主催日本留学フェアが開催されました。

80を超える参加機関が各ブースにて、工夫を凝らしたPRをしており、活気溢れるフェアとなりました。その中で、仙台大学のブースには、両日で約50名程の学生並びに留学関係の企業関係者が訪れ大盛況となりました。

今回、日本留学フェア初参加となった仙台大学では、ハノイ大学大学院に在学している鈴木美生さんの協力を得ながら大学紹介を行いました。

フェア中は、大学の基本理念である【Sports for All】のもと、朴澤理事長・学事顧問にご指導をいただきながら、各学科の特色を伝えるとともに、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けこれからのベトナム国内でスポーツに関連した知識技術の普及を呼び掛けました。

ベトナムではスポーツは趣味の一環として行われていますが、専門的に学ぶ機会ほとんどなく、体育の授業がない学校もあるということでした。ですので、スポーツと聞くとプロのアスリートを目指すための大学と認識する学生が多く見受けられ、仙台大学の特色である“スポーツと栄養”“スポーツと福祉”“スポーツと情報”などの他の分野との関連付けを説明することはとても難しく感じました。

仙台大学を紹介するに当たり、自分自身が深く関わっている分野の知識や経験を話すだけでは、「仙台大学とはどんな大学なのか」という本質を伝えることができないと痛感しました。今後は、自分の専門分野に限らず、仙台大学全体の取り組みを通して、学生に何を提供できるのか改めて理解を深めていきたいと考えています。

来年度、今回のフェア参加をきっかけに一人でも多くの学生が仙台大学へ入学することを願います。

<報告：新助手 小野勇太、三品朋子>

## ベトナムでのプレゼンテーション実施



「足漕ぎ車いす走行訓練と身体機能の改善」について  
＝関矢准教授



「仙台大学アスレティックトレーニングについて」  
(デモンストレーションの様子) ＝小野新助手



「仙台大学体育学部運動栄養学科について」  
＝三品新助手

11月17日（月）、ホーチミン市体育大学訪問時に約50名程の大学院生に対し、①「足漕ぎ車いす走行訓練と身体機能の改善」について関矢准教授より、②「仙台大学アスレティックトレーニングについてとテーピングデモンストレーション」について小野新助手より、③「仙台大学体育学部運動栄養学科」について三品新助手よりそれぞれプレゼンテーションを行いました。

「足漕ぎ車いす走行訓練と身体機能の改善」については、先日来訪されたベトナムハノイ、バクマイ病院とjica・仙台大学の共同研究に関するデータを基に、ベトナム国内で実際に行われた臨床研究結果の一部を紹介し、今後のベトナムでの展開について解説をしました。プレゼンテーションの後半には、現在日本で行っているベトナム医療従事者向け足漕ぎ車いす療法研修会の報告と、今後実施する動作分析の実際を映像とサンプルデータを介して紹介しました。質疑応答では、研究開発に関する質問が多く挙がり、大学院生のみならず大学教員の方々にも強い関心をもっていただけた様子でした。

「仙台大学アスレティックトレーニングについてとテーピングデモンストレーション」では、アスレティックトレーニングについての解説から、実際にテーピングの処置を行う様子を動画とデモンストレーションで披露しました。質疑応答の際には、「テーピングのテープには薬品が含まれているのか」「テーピングを行うことで早く治癒するのか」といった治療目的で行うものと感じている様子が見受けられたため、テーピングの処置を行うことにより「怪我の予防と再発防止」「怪我をした部位を補助する」などの考え方について解説をしました。ベトナムではまだ展開されていない分野ということもあり、大学院生の皆さんの関心が強く感じられました。

「仙台大学体育学部運動栄養学科」については、運動栄養学科の特色並びに運動栄養サポート研究会の活動について解説しました。ベトナムでは、幼少期の栄養不足が食の問題として挙げられているものの、大きく取り上げられる機会が少なく、運動栄養という分野はまだまだ関心が低い現状であると感じました。他国の興味関心を高めていくためにも、まずは各国の食問題について学び、考えていく必要があると痛感しました。

今回プレゼンテーションを行った3つの分野の普及をはじめ、仙台大学の基礎理念である【Sports for All】の精神がベトナム国内にも広まっていくよう尽力していきたいと思えます。

<報告：新助手 三品朋子>

## 第19回新体操演技発表会 12/7(日)開催



今年で19回を迎える「新体操演技発表会」（主催：仙台大学男女新体操競技部）を12月7日（日）に開催致します。

発表会には、本学男女新体操競技部・仙台大学開放講座ジュニア新体操教室・本学ブレیکن同好会・浅沼圭選手（フリースタイルダンサー）が出演予定です。

学生たちの迫力ある演技、子どもたちのかわいらしい演技をぜひご覧ください。

一般の方もご入場頂けます。皆様のご来場をお待ちしております。

日 時：2014年12月7日（日） 12時30分～15時（開場12時）

場 所：仙台大学第五体育館

入場料：無 料

## 第10回スポーツシンポジウム 12/13(土)開催



12月13日（土）、仙台市民会館で本学主催事業「第10回スポーツシンポジウム」を開催致します。

「スポーツが与える夢と希望」をテーマに、3大会連続でパラリンピック陸上競技走り幅跳びに出場している佐藤真海さん（サントリーホールディングス株式会社）らが講演を行ないます。

入場のお申し込みの際は、住所・氏名・年齢・電話番号・参加人数を明記し、ハガキ、ファックス、Eメールにより以下までお送り下さい。

■ハガキ/980-8660（住所記入不要）

河北新報社営業部「スポーツシンポジウム」係

■FAX/022-227-0923

■Eメール/oubo@po.kahoku.co.jp

## 仙台大学レクリエーション部、「第16回FLOWER」開催のお知らせ



仙台大学レクリエーション部は、主に仙南地域を中心に、児童館や小学校、福祉施設、社会教育施設などでレクリエーション活動や体育指導、季節のイベントなどのお手伝いをしています。また、夏休みには、ミヤギテレビが主催する沖縄遊・YOU塾のシニアリーダー、蔵王少年自然の家での長期キャンプのアシスタントとしても活動を行っています。

そして、年に一度、部員が集結し「FLOWER（フラワー）」というイベントを開催しています。お子様から大人の方まで皆様と共に楽しめるイベントで、今回で16回目を迎えます。今年は「まごころ」をテーマに、「FLOWER」を通して真心を持って感謝の気持ちを伝えたいと思います。

つきましては、以下の日程等で「第16回FLOWER」を開催致します。皆様のご来場を心よりお待ちしております。

仙台大学レクリエーション部 部員一同

日 時：平成26年12月21日（日）13時～15時30分（開場12時30分）

場 所：槻木生涯学習センター

入場料：無 料

## 男子サッカー部、東北地区大学サッカーリーグ2年連続「全勝優勝」 —14年連続31回目のインカレ出場へ



2年連続「全勝優勝」を喜ぶ仙台大学男子サッカー部の選手ら  
＝宮城県サッカー場

11月1日（土）、宮城県サッカー場（利府町）で「第39回東北地区大学サッカーリーグ第9節（最終節）」が行なわれ、本学男子サッカー部は、岩手大学と対戦しました。

仙台大学は、0-0で迎えた後半15分、左サイドからのコーナーキックをDF中條渡選手（体育学科4年—宮城・東北高校出身）が豪快に頭で合わせて先制。

さらに後半29分には、リーグ得点王のMF宮澤弘選手（体育学科1年—柏レイソルユース出身）が、思い切りよく左足で振り抜いたシュートがゴールネットに突き刺さり追加点。終始相手を圧倒し続けた仙台大学が2-0（前半0-0、後半2-0）で岩手大学を破り、貫録の全勝（9勝0敗：5年連続東北地区大学サッカーリーグで負けなし）優勝を果たしました。これで、本学男子サッカー部は14年連続31回目のインカレ（第63回全日本大学サッカー選手権大会）出場への切符を手に入れました。

インカレは、12月11日（木）～味の素スタジアム西競技場（東京都調布市）等で開催される予定です。引き続き、本学男子サッカー部への熱い応援をよろしくお願い致します。



後半、ゴールを決め喜ぶMF宮澤弘選手（14）

## 男子ウエイトリフティング部—全日本大学対抗ウエイトリフティング選手権大会（2部）に出場

小川選手のジャーク



写真提供：壹岐優監督

大津選手のスナッチ



写真提供：壹岐優監督

11月7日（金）～9日（日）の三日間、羽曳野市立総合スポーツセンター（大阪府）で「第60回全日本大学対抗ウエイトリフティング選手権大会（2部）」が行なわれました。

本学男子ウエイトリフティング部からは3名が出場。

小川純選手（運動栄養学科1年—山形・鶴岡工業高校出身）が69kg級に出場し、スナッチ88kg・ジャーク110kg・トータル

198kgで6位入賞。85kg級に出場した鈴木嘉浩選手（スポーツ情報マスメディア学科3年—山形・鶴岡工業高校出身）は、スナッチ86kg・ジャーク110kg・トータル196kgで10位。

大津恭輔選手（体育学科1年—宮城・石巻高校出身）も94kg級に出場し、スナッチ101kg・ジャーク134kg・トータル235kgで6位入賞を果たしました。団体の結果は、出場20チーム中13位でした。

創部3年目・監督就任1年目の壹岐優監督は「インカレ前の目標は、団体でポイントを獲得することだった。創部以来、インカレで初めてポイントを獲得（15ポイント）することができ、今後に向けて大きく前進することができた」と話し、「順位を決める最後の1本に挑む集中力と技術力を高めていきたい。普段の練習の「質」にこだわり、次は2部のトップ10入りを果たしたい」と今後の抱負を述べました。

## 第12回インディペンデンス全日本大学サッカーフェスティバル— 宮城県で全国大会開催、本学男子サッカー部が4年連続出場



0-1で迎えた前半40分、FW日野口選手（11）が直接フリーキックを決め、1-1の同点に追いついた。

控え選手の出場する機会の拡大を目的とした「インディペンデンスリーグ（Iリーグ）第12回全日本大学サッカーフェスティバル」が、11月28日（金）、宮城県サッカー場で行なわれました。

同フェスティバルは、昨年に引き続き、宮城県で開催。東日本大震災からの復興を支援することも大きな目的の一つとなっています。

4年連続出場の本学男子サッカー部は、初戦で環太平洋大学（中国地区代表）と対戦。本学は前半33分、先制点を許す苦しい展開。し

ひのぐちれん  
かし、前半40分に日野口廉選手（11）（体育学科4年一埼玉・昌平高校出身）が見事な直接フリーキックをゴール左隅に決め、1-1の同点に追いつき、前半を折り返しました。後半10分、PKを決められ、再びリードを許してしまいます。その後、仙台大学は何度か好機を作りましたが、決定力不足で試合終了。1-2で環太平洋大学に敗れ、残念ながら初戦敗退となりました。